

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
図画工作 Arts and Handicrafts		児童教育学科 初等教育学専攻	1年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
演習	2	必修	佐古 淳子	
概要				
<p>図画工作における領域の中で、絵画・デザインを主におこなう。工作は教材研究に、鑑賞は美術史の託しながら相互に行っていく。絵画ではデッサン・水彩画を、デザインはポスターを作製する。採用試験対策のため、持ち込み不可の試験を行う。色彩関係について知識を得られるような内容にする。</p>				
到達目標				
<p>(1) 水彩画、ポスターの制作の手順や画材、用具などについて説明することができる。 (2) 水彩画、ポスターの特質を知り、意欲的に取材し、画面構成力を高めることができる。 (3) 透明水彩、ポスターカラーの扱いに熟達し、表現したい内容を描くことができる。 (4) お互いの作品を鑑賞して考えを説明し合い、高め合うことができる。</p>				
授業内容とすすめ方				
【前期】 1 オリエンテーション・人物クロッキー 2 鉛筆デッサン・ものの見方 -手・器と視点- 3 鉛筆デッサン -人物の顔- 4 鉛筆デッサン -人物の顔の仕上げ- 5 水彩画の制作 -モチーフの選択・レイアウト- 6 下描き①-構図決定(鉛筆)- 7 下描き②-細部描画(鉛筆)- 8 着彩①-薄塗り- 9 着彩②-画面全体を見ながら色を重ねていく- 10 着彩③-色を重ねて深みを出す- 11 着彩④ 同上 12 着彩⑤ 同上 13 評価・講評 14 演習グラデーション①-色について- 15 演習グラデーション②-ポスターカラーの使い方-		【後期】 1 ポスターについて 2 レタリング-ゴシック体と明朝体① 3 レタリング-ゴシック体と明朝体② 4 資料収集・構想・アイデアスケッチ 5 コピー・レタリングの考案 6 下描き①-構図決定- 7 下描き②-レタリングのトレースや細部- 8 着彩① 9 着彩② 10 着彩③ 11 着彩④ 12 着彩⑤ 13 着彩⑥ 14 評価・講評 15 まとめ		
テキストおよび 参考文献	小学校学習指導要領 第7節 図画工作 中学校学習指導要領 第6節 美術			
メッセージ な	制作が主となる活動です。この実習を通じて、水彩絵の具とポスターカラーの扱い、色彩、画面構成、レタリングを学んでいきます。			

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 水彩画、ポスターの制作の手順や画材、用具などについて説明する事ができる。	ほぼ完璧に基本を説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	15%
(2) 水彩画、ポスターの特質を知り、意欲的に取材し、画面構成力を高める事ができる。	ほぼ完璧に正しく理解して、自分の考えで制作・助言ができる。	大きな手違いがなく理解して、自分の考えで制作・助言ができる。	理解不足のため手違いはあるが自分なりに制作・助言ができる。	理解を怠り、自分の考えで制作できていない。また制作しない。	授業内での制作（発想・構想・創意工夫および関心・意欲・態度）	40%
(3) 透明水彩、ポスターカラーの扱いに熟達し、表現したい内容を描く事ができる。	ほぼ完璧に技法の特性を理解して表現でき完成することができる。	大きな手違いがなく技法の特性を理解して表現でき、完成することができる。	技法の特性の理解不足のため手違いはあるが、自分なりの表現ができる。	技法の特性の理解を怠り、自分なりの表現もできていない。また制作しない。	授業内での制作（表現の技能および関心・意欲・態度）	35%
(4) お互いの作品を鑑賞して考えを説明し合い、高め合うことができる。	ほぼ適切に作品のよさや作者の心情、自分の考えを説明できる。	大きな間違いがなく、作品のよさや自分の考えを説明できる。	不適切な表現はいくつかあるが、自分の考えを説明できる。	説明できていない。	授業内での相互評価（鑑賞）	10%